

第65号

2018年9月
認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834仙台市宮城野区松岡町17-1

郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp

<http://www.muginokai-koppe.com>

目次	アピール大行動2018にご参加下さい	飯嶋 茂	・・・1 p
	自己紹介	神品 暖子	・・・4p
	共同連東北ブロック交流会に参加して		
		本永 幹	・・・5 p
	新聞記事より		・・・7 p
	ソレイユまつり	氏家 大介	・・・8 p
	モンゴル日記	伊藤未来・浩子	・・・9 p
	モンゴルに行ってきました①	後藤 祝子	・・・12p
	モンゴルに行ってきました②	木村 敏子	・・・15p
	モンゴルに行ってきました③	飯嶋 茂	・・・17p
	絆	阿部 央希	・・・20p

みやぎアピール大行動 2018 へご参加下さい！

飯嶋 茂

みやぎアピール大行動実行員会は、障害者自立支援法“応益負担反対”を訴え、12年前に県内の障害者、家族、支援者で結成され、現在37団体がつどい、より良い障害者福祉を求め活動を行っています。

毎年200人ほどがつどう集会&アピール行進を行う取り組みを柱に、各種要望活動などを行っています。今年のアピール集会&行進は、以下の日程で行います。

9月24日(月・祝) 12:50～ 集会 15:50 アピール行進

場所 せんだいメディアテークオープンスクエア

今年のテーマは、「なくていい命なんてない！いま自由と生存を考える」です。

立命館大学の立岩真也さんの講演と当事者アピールを行います。

ちょっと硬いテーマですが、津久井やまゆり園事件をはじめ、虐待や身体拘束、精神障害者の長期入院、旧優生保護法による強制不妊手術、出生前診断など、障害のある人が排除されている現実、まだまだたくさんあります。

また、自民党議員によるLGBTの人たちに対する「生産性がない」という発言は、そのまま障害者に対する差別へとつながっています。

どんな人でも排除されることなく、あたりまえに生きていける社会・地域・学校・職場になるようみんなで声をあげていきましょう。

チラシを同封します。是非ご参加下さい。

みやぎアピール大行動実行員会では、集会の後、毎年、仙台市長及び宮城県知事と懇談会を行っています。すぐに結果が出るわけではありませんが、私たちの思いを自治体のトップに直接訴えることが出来る貴重な機会です。皆さんからの意見をとりまとめて仙台市・宮城県へ要望書を提出しています。訴えたいことがあれば、ご連絡下さい。実行委員会で検討します。

参考までに今年仙台市に提出した要望のうち、市長面談のあと再度担当課と話し合うために、最初に出した要望から絞り込み、再提出した要望から抜粋して掲載します。

《 仙台市への再要望 》

【災害時医療相談】

災害時には、診療所や薬局の開院状況について、避難所等への情報提供とホームページでの発信というご回答をいただきました。

しかし、東日本大震災の時には、避難所がすぐ満員になりましたし、バリアフリー化されていないために、避難所ではなく、自宅で過ごさざるを得なかった人が多かったのが実情です。また、ホームページを見られない環境の人も多いです。より多くの人たちに情報が届けられるよう、ご検討ください。

また、個別の相談については「仙台市医療相談窓口」での対応をお考えのようですが、災害時に どう拡大対応するのか具体的なお答えをいただいていません。災害時にはどんな体制を取られるのでしょうか？

東日本大震災の時には、各患者団体が独自に相談対応にあたりました。仙台市が持っている情報と各団体が持っている情報を共有し連携するために、患者団体との話し合いなどを早急に計画して下さい。災害が起きてからでは遅いです。

【相談支援】

平成30年度の報酬改定において、改定率は全体で+0.47%となっておりますが、サービスによっては基本報酬が下げられ、加算を多く取らなければ、事業所によ

っては減収になってしまいます。計画相談の給付においても、基本報酬は下げられ、加算方式によるインセンティブな報酬体系に強められています。モニタリングの頻度を高めるよう実施標準期間の見直しが行われ、これまで以上に事業所の人的負担が増えることが予想されます。仙台市は、基本報酬を下げない報酬単価の設定となるよう、引き続き国に要望してください。

また、平成29年度に旧知的の5事業所に対し、委託料の増額を図ったのですが、まだまだ実態等を踏まえた額にはなっていません。委託相談事業の実態等を踏まえた人員配置を検討し、人件費や運営費の増額を引き続き検討してください。

【販売支援】

区役所販売の曜日の拡充につき、努力をさせていただいているとの回答でしたが、例えば、当団体に参加するするコッペでは、29年度区役所・文化センター合計で52回あったものが、30年度は39回と大きく減っています。1回あたりの販売の平均が2万円ですので、20万以上の減収になります。

やはりこれは、販売を希望する障害福祉事業所の数も増えていることに起因していると思います。

30年度の報酬改定により就労継続支援B型は、平均工賃に応じた報酬体系に変わりました。各事業所とも工賃をあげる取り組みがさらに必要になっています。

何回も繰り返しますが、区役所等の販売は、仙台市として費用も掛からずそれでいて効果的です。

各区役所の事情もあるかとは思いますが、各区役所で福祉事業所の販売があることが当たり前風景になるようさらに努力をお願いします。

【就労継続支援事業所アンテナショップ】

当項目の件について、「（仙台市障害者販売業務訓練等事業で）販売促進に向けて現行の取り組みの改善策を探ってまいりたい」との回答をいただきました。しかし販売訓練が主目的の同事業では「訓練の場」として一般的な商店モデルが必要で、「ビジネスモデルの発信」と併用することは困難です。

京都市の「はあと・フレンズ・ストア」は事業主体が京都市ですが、SNSを活用して一般向けに積極的に情報発信を行い、頻繁にイベントを企画するなど福祉と関わりが少ない方との接点づくりに励んでいます。仙台市障害者販売業務訓練等事業とは別に、仙台市でも京都市同様、公設民営のアンテナショップを設置することを改めて求めます。

以上

自己紹介

私の名前は

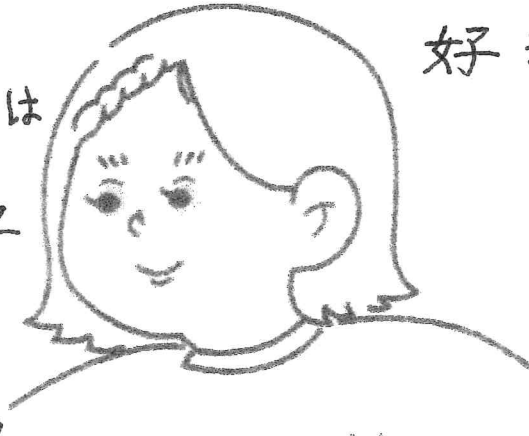
神品 暖子

こうしなあこ

です。

もうすぐ

20才です。



好きな歌手

嵐

です。

ARASHI



☆ どうぞよろしくお原頁いします。☆

趣味は、

編み物、刺し子、

ダンス、

字を書くこと、

などです。



※ 筆習は
右利きです。

☆ おいしいパン・クッキーを作り

たいです。☆

共同連東北ブロック交流会&マラソントークに参加して

NPO 法人シャロームの会 本永幹

2018年6月16日(土)、共同連東北ブロック交流会&マラソントークが開催され、私は準備段階から係らせていただきました。

私は前年の7月に現法人に入職し、ようやく仕事にも慣れてきたころでしたが、「共同連」については触れることがなく、恥ずかしながら今回の企画でその存在を知ることとなりました。前職で共同連の連帯団体であるワーカーズ・コレクティブやワーカーズユースと共に仕事をしたことがありましたので、これまでのイメージをもって打ち合わせにも参加させていただきました。そのイメージ通りの雰囲気を感じ、今回の企画が私にとってグッと身近なものとなりました。形にこだわらず、組織に縛られず、自由な空間の中で、今の社会に根付いている価値観を変えていこうという熱い思いがユーモアを交えながら飛び交う場面に共にいることで、自分自身が「なぜ今この仕事をしているのか？」という問いに対する答えが示されているようにも感じました。

さて、当日は第1部を事業所見学とランチ、第2部をシンポジウムという2部構成で行われました。事業所見学とランチではNPO法人ほっぷの森が運営する「長町遊楽庵びすた〜り(就労継続支援A型)」と当法人が運営する「オリーブの杜(就労継続支援B型)」に分かれて行われました。それぞれのお店では営業中にも関わらず柔軟な対応をありがとうございました。

第2部は会場をエル・パーク仙台に移し、シンポジウムが行われました。シンポジウムに先立ち企業組合ねっこの輪の白杉さんより「分けない切らない働き方〜共同連の目指す社会的事業所とは〜」というテーマで共同連のビジョンが語られました。障害をもつ、もたないに関わらず、同じ立場で対等に働くことの追及を続けられており、経済的な課題など様々な問題に触れながらも、白杉さん自身が楽しみながら活動が続けられている様子が伝わってきたのが印象的でした。

シンポジウムでは、NPO 法人ほっぷの森白木理事長、NPO 法人シャロームの会菊地統括施設長、NPO 法人わっぱの会齋藤理事長がシンポジストとして、「枠を超えた広がりをつながり」というテーマで、マラソントークが行われました。それぞれのシンポジストから事業を始めたきっかけや現在の取り組み、苦労などを聞かせていただきました。明確なビジョンとそれを実現させるための行動力に大変よい刺激をいただきました。

「地域共生社会の実現」が色々な場面において語られる時代となりました。良い傾向と思いますが言葉だけが独り歩きしているようにも感じます。今回のマラソントークを通じ、地域共生社会の実現に向けたヒントを得たように思います。それは「継続性」です。登壇されたみなさんすべて長くこの事業に携わり、多少の変化はありながらも、継続されることで共に働く人、地域、行政の信頼を得て今があるように思います。何かとすぐに結果が求められる時代ですが、あらゆる人が安心して社会に出て、共に働き、共に生きることは試行錯誤が必要で時間のかかるものです。共同連がこれまで取り組まれてきたことが、今、必要とされていると今回の時間で感じました。

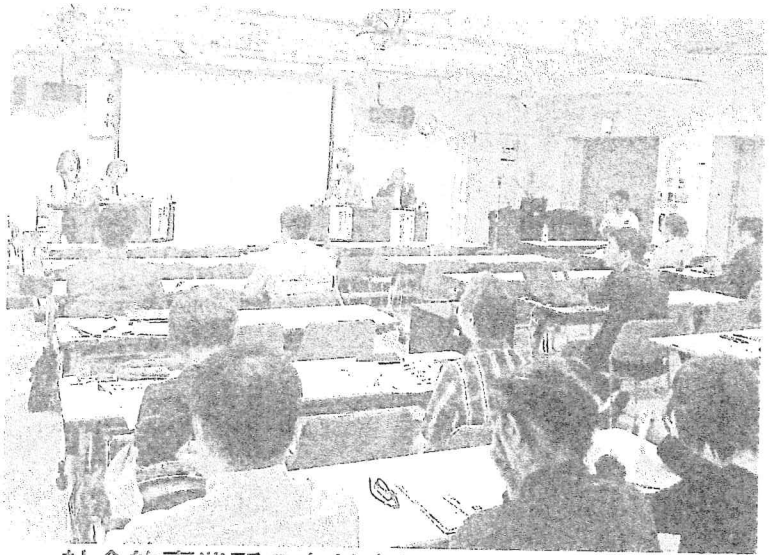
今回は東北ブロックでの関わりとなりましたが、機会があれば他のブロックの活動も知り、これからの活動にも携われたらと思います。

改めて、今回の共同連東北ブロック交流会&マラソントークに参加させていただきありがとうございました。

6/18 2020

自立助ける事業所を

仙台 障害者らの就労考える



社会的事業所の在り方について話し合ったシンポ

障害の有無に関係なく誰もが共に働き自立する「社会的事業所」の在り方を考えるシンポジウムが16日、仙台市青葉区のエル・パーク仙台で開かれた。NPO法人共同連東北ブロックが

主催し、福祉関係者や市民約100人が参加した。

シンポジウムのテーマは「枠を超えた広がりとながり」。いずれもNPO法人で福祉事業所などを展開するわっぱの会の斎藤けんさう三

理事長（名古屋市）、ほつぷの森の白木福次郎理事長（仙台市）、シャロームの会の菊地康子統括施設長（同）が事例を紹介した。

斎藤氏は運営する資源買い取りセンターやカフェを備えた地域交流拠点施設について報告。障害のある人や高齢の生活困窮者たちの雇用を生み出していることに触れ、「地域住民に開かれた場で働くことが、差別や排除をなくすことにつながる」と訴えた。

白木氏は県内での就労支援活動を振り返り、「適切な支援を受けられるネットワーク作りを通し、障害のある人が生きやすい世の中にした」と語った。

5月19日(土)

ソレイユまつり

ソレイユまつりにいい日とおぼろけたりで

ソレイユまつりにいきました。

おきおきとせんがわいおほいきました。

いらしかれいせとわいきました。

かえるはカレーライスとおきおほいをいたて

ました。とこもおほいしたてです。

いろんないせつのもとかきつてました。

いんち、まじめがわいしてくたるとかいてうたわいからたて

おかえるときソレイユのふしとせんがわいには手を

ぶくたました。うたわいしたてはうたわいした

てす。かたわいうちのちかすて

いい日とせんがわいおくとくたまた。またソレイ

まつりにいきたいです。

氏家大介

モンゴル日記

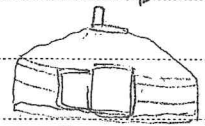
伊藤 未来
+ 伊藤 浩子

○ 7月24日

今日は、仙台くうこうにいきました。みんなと
ひこうきにのりました。成田くうこうにつきました、
ひこうきにのってモンゴルにつきました。

仙台ー成田便は
プロペラ機でした。

飛行機の窓から、モンゴルの緑の大地に点在する白いゲル
や、真、すぐにはびる鉄道や道路が見えました。
はいはいモンゴルだ! と感じられました。



[モンゴル移動式住居]

○ 7月25日

今日は、みんなとバスでけんがくにいきました。
いろいろみました。ホテルについて食事をしました。
アツア大会のはなしでした。がんばりました。

見学に行ったのは「リハビリと職業訓練センター」で、
このような施設は広いモンゴルにここだけとのこと。
補装具を作っている所や子供達がリハビリをする所など、
いろいろありましたが、設備や人材など、全てにおいて
まだまだなんだな...と、感じました。(職員の女性の方が、皆さん
白いブラウスに青いスカート、黒のタイトスカートでいらっしやることに
ビックリ! 今日はお客様をお迎えするからこの服装...との事でした。)

。7月26日

今日は、みんなとさんぽをしました。
いっぱいあるきました。はなもききました。
おみせけもかりました。たのしかったです。

洗車してある車など、
まず見あたりません。

モンゴルの首都 ウランバートルの街を歩きました。
走っている車はトヨタのアリウスがとて多いです。朝の通勤
時間帯だから、信号のある交差点でも おまわりさんが立って
交通整理をしていました。歩行者信号が青の時間はとて短く、
しかし、車いすを押している私達の為に、信号が赤でも、車を止めて
横断させてくれるやさしいおまわりさんがいらっしゃいました。

。7月27日

今日は、みんなとチンギスハーンの
イ像をみました。レストランで食べました。
ゲルでうまにのりませんでした。たのしかったです。

大草原の中にドーンと、
とにか巨大な騎馬像。
高さ約40mのお顔
の前まで登れます。

ちょうど昼食時に、結婚式が行われていて、親族の方などは、
モンゴル民族衣装を着ておられ、ステキでした。また、前日の夕食時に
同席になったモンゴル人のお二人。20代後半の女性はすでに
小学生のお母さん。20代前半の男性はもうすぐお父さんになるとの事。
お二人とも日本語を勉強されている。女性の方は科学技術大学生
でもあり、秋には日本の企業で設計の仕事を学ぶそうです。スゴイ
草原コテージで、モンゴル馬に乗ってみようとみきは2回チャレンジ
したのですが、いざ乗るとなると、やはり高さもあり、コワくなってムリでした。
現地の少年達は、ふつうに馬に乗って大草原を駆けていました。飒爽と

○7月28日

← 朝早く、朝食も食わずに...

今日は、くうこうにいきました。ホテルにもどって ← 遅い登はん。
みんなでしゃくじをしました、よなかにみこうきにのりました。
みんなでねました。きもちよかったです。 ← 29日 00:30発!!

まさかこんなことになろうとは、思いもよりませんでした...

成田が台風ということで、結局 予定より約17時間の遅延。

ビックリです。また、同じ飛行機に、貴の岩間と他3名のお相撲さんと一緒でした。大きかったPP (ビジネスクラスとエコミ-)。

真夜中のフライトでも、ふつうに機内食を提供され、それを食べていることも非日常! なんだか不思議でした。

○7月29日

今日は、あさ成田くうこうにつきました、しんかんせんにのりました、仙台につきました、みるねをしました、うれしかったです。

← 窓越しに、だんだん夜が明け、朝日が差し込んでくる着陸前でした。

前日の成田-仙台便はとうに欠航しているので、ここもまさかの新幹線移動となりました。バスで東京駅へ、夏休み中でのなかなかの混雑。チケットトラブルがあったり、時間ギリギリだったりと、本当にすたもんだしながらでしたが、なんとか皆で元気に帰ってきました。いろいろな経験をさせてもらいました。いろいろな方とお話させてもらい、また、貴重なお話をきかせてもらい、多くのことを学ばせていただいたと思います。この機会を得られたことに感謝したいと思います。飯島さん、後藤さんご夫妻、木村さん、幸子さん、本当に伊藤家一同お世話になりました。ありがとうございました!!

第5回アジア障害者国際交流モンゴル大会へ車椅子の旅

成田を経つこと5時間 飛行機の先に大草原が現れた。眼下には柵で囲われた家(ゲル)が同じように立ち並んでいた。緑の中の白い家丸で箱庭。飽きずにはずと見ていた。

滑走路に着くとすぐチンギスハーン空港。夜だというのに明るい迎えのバスでバヤンゴルホテルへ……

大会会場中に抜け出し8人は散歩に気温は高い。日差しが強くても湿度が低い分袂に歩けた。歩道は至る所穴だらけ。段差はあたりまえ。マンホールの蓋も斜めにあいたまま。よく下を見てないと、車椅子は難しい。それには及はずと、飯嶋さんの操縦は見事！ 大きな建物の前には、だいたい銅像がある。

人も多く行き交って、車といえは狭い道路にウイカーも出さずに割り込む。道が悪いのに、バウンドしなから入る運転技術に変に感心する。交通量の多い交差点のまん中におまわりさんか。驚きた！ 道路脇にあまり大きくない木が同間隔で並んでよく見ると木の札の様な物が線できくられていた。

暗くなったときに分かった。ソーラー発電で街中明かるくしていた。

ミンテパートでショッピングの下見をした。たまたまカシヤ売り場に日本語が分かる店員さんがいて、くつ下、ストールを買った。トグルクが計算できない。次の日大会全員がバスでミンテパートでショッピング。前日の所なのでゆっくり見て回った。バスに乗り込むとき、降りる時、靖さんは頑強な男性にかかえられるように車椅子に乗ることができた。

バスはウランバートルを後に チンギスハーン像に向けて遙かなる草原をひた走り、一本道はどこまでも続き、草原は同じ景色。

道路片側一車線のボコボコ道は延々と、路側帯はぎりぎりの舗装。土が見え、バスの一番前に乗ったので前方がよく見え、

対向車も同じ条件で穴をさけての運転ハラハラする。時々道路に牛が出てくる。道路中央に水たまりがあり、そこで牛はゆっくり飲んでいた。バスは牛が去るまで待っている。何か温かい気分。

バスの側面窓は暗いすりガラス。外の景色は夕方に見える。UVガラスではない。チンギスハーン像に付いたら、いきなりの雨。像までの坂はきつく、飯嶋さん

他、傘をさして、車椅子を押す。息が切れる。像の下は円形の建物でイベント会場にもなる。結婚式に出会った。親族は民族衣装だが花嫁はウェディング姿。二階から見下せる会場で祝福されていた。

レストランで昼食後チンギスハーンの体内の階段を登り(車椅子はむり)外に出ると巨大な顔がせまってみえる。雨止まり車椅子を押した飯嶋さんも像の所から降りてきて、写真撮り。バスに乗り込もうとした時「あ、サイフない」と探しにもどった。みんな心配して待つもみつからずスリにあったらしい。本当にショック。パスポートは無事だったこと胸を撫で下ろした。

バスは草原を走り、草原に建つゲルの中で夕食。ビールがおいしかった。そこからUターン長い長い道程でホテルに着いたのは10時?翌朝5:30送迎バスでチンギスハーン空港へ。どうも様子がおかしい。台風で飛べないとわかった。その後旅行中の英語が話せる牧野さん親子に出会い、いろいろ交渉してもらった。

お蔭様で私達はホテルにもどり体を休めることができた。

夜8時再び空港へ飛べることに頼って... 0:30 ナンギスハーン空港を後にすることができた。

飛行機での車椅子乗降は、広い専用のリフトカーで、ゆくり飛行機入口まで案内された。これもハイテク時代のお蔭。車椅子の旅も快適になった。目的はアジア障害者国際交流モンゴル大会だか大会での3ヶ国、日本、韓国、モンゴル語の通約でその国の実状を知った事分科会での発表、国立の職業訓練校施設の視察など交流は有意義だった。

この旅には影の立役者？を忘れてはならない。未来ちゃんのお父さん康廣宏さんは旅なれている方、何事にも先に立って誘導してくれたり、木村さんの車椅子を押したり、とにかく気が利く、ユーモアあり気持を和ませてくれました。スベツスベツ個性を發揮した楽しい旅にしてもらいました。みんなちがってみんないい。

記憶は正確とはいえません。確かなのはこのメンバーでモンゴルに行けたこと。人の親切さ、温かさに触れ感動したこと。この体験は忘れられない思い出です。

みなさん本当にバイラルラー！

ジョー 祝子記

第5回 障害者 アジア大会にて

(2018年7月24日～7月29日)

木村 幸子・敏子

三冊目のパスポートを新取得することから始まった、モンゴル、ウランバートルの5泊6日間。成田空港からの5時間の眼下には、どこまでも続く草原がある。

日本との時差は1時間。猛暑の日本から離れ20度の気温。モンゴル、フィリピン、カンゴク、エホンの各国の言葉の中で日本語に翻訳されている資料の内容は理解できても、資料のない時は通訳のマイクのせいなのか、私の耳の集音器の充電がうまくできなかつたせいか………???

生活の分科会で4ヶ国の中では福祉が一番充実しているはずの日本からの発言が胸を突く。「日本では、障害者が商品化されている」

最終日にはケルの中での食事を体験できた。羊の塩丸焼き、ホースミルク(発酵された馬のミルク)めずらしはあっても美味とはいいがたい。身の丈より深くほた土の上に2枚の板を渡しただけのトゥボン便所もなつかしい思いで”使用

させていただく。移動中のバスの車窓から草原では馬上の飼主と犬と一諸に、馬、牛、羊が食事をしている。動物を囲う草がたい。雲間からはほんとうに大きな、大きな太陽が沈む。

空港から街までの道中には、建てかけのビルが続く。「不景気の今は工事が止まっている。又、冬の寒さのせいだ。コンクリートが固まりにくい」と答が返ってきた。山に木が育たないほどの寒さとはどのほどのものだろうか。

私と娘は1回韓国でのアジア会議に出席している。私の体を気遣い、荷物を持ち、空港でひとりでの行動が多くなっている頼もしい娘がいた。

私達のモンゴルでの時間が心地良いと思われたことは、出国の広い空港から決して軽快とはいえないがたい私の車椅子を現地でも押し続け、観光地でスリに全財産をうばわれた人に、日本の台風のためウランバートル空港で出発時間が20時間以上遅延した時、各場所やいろいろな用所にてほんとうに細かい配慮をしてくださった貴殿と一諸でできたことにつきますと思います。心から感謝いたします。ありがとうございます。

そして今、次の会議の出席を楽しみにできる、私がいまいます。

モンゴルへ行ってきました！

飯嶋 茂

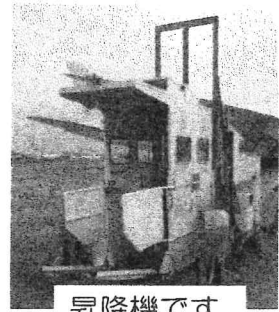
今年の共同連大会（アジア障害者国際交流大会）はモンゴルで行われました。コッペでも、飯嶋、後藤靖・祝子夫妻、木村幸子・敏子親子、伊藤未来・浩子・康宏一家の計8名で、7月24日～28日、参加してきました。康宏さんを除いて、慣れない海外旅行者ばかり。楽しいことも、大変だったことも盛りだくさんのモンゴルでした。

まずは飯嶋・後藤はパスポートを取得するところから。申請する際、靖さんは自分では書けないので、祝子さんが代筆。その書き方も難しい。代筆が必要な方もたくさんいるはずだから、その注意書きもわかりやすくしてくれればいいのに。

行程は仙台空港～成田空港へ。そして直行便で、成田～モンゴル・チンギスハーン空港へ。

仙台～成田は小さいプロペラ機。タラップが飛行機へつかないので、搭乗口からバスで飛行機へ。仙台空港は昇降機がなく、最後の階段は人力で機内へ。そういえば、どこぞの航空会社で昇降機がなく搭乗を拒否されたということが報道されて話題になったことがありました。成田は昇降機がきちんとありました。

成田空港は広い。自分の体重を支えることが難しく、歩くのに杖を使っている敏子さんは、国際線乗り場への移動だけで息切れ状態。もう車椅子を借りなければだめだということで、臨時のなんちゃって車イス利用者となりました。



昇降機です



空港前にて

ポーク or チキン？と尋ねられた機内食をチキンと答えてクリアし、フライト時間5時間でモンゴルへ。機内から見た風景は、ずっつっつと草原が続いていました。さすがに感動ものでした。チンギスハーン空港へ降り立ったのは夜9時半ごろだったのでしょうか。まだ外は明るい。日が長い。5000円を現地の通貨トゥグリグへ両替。100トゥグリグがだいたい日本円にして5円ということで、お札の枚数はたくさんになって戻ってきました。初日はそのままホ

テルへ行ってお休み。

初日、午前中はスタディツアー。ウランバートルで唯一だというリハビ

リテーション施設へ。宮城でいえば拓桃か船岡支援という位置づけでしょうか。熱心にスタッフの人が説明してくれましたが、設備だけでいうと日本と比べれば30年ぐらい前の状況でしょうか。モンゴルはウランバートルに人口が集中していて120万ぐらい。それでリハビリの施設が一つだけというのも、足りないですよ。



午後からホテルへ戻って、大会の開始。韓国、フィリピンからの参加者もあり、モンゴル語・ハングル・日本語の三か国語が飛び交う。それぞれの代表から各国の障害者の置かれている現状の報告。通訳の方の声が届くレシーバーを渡されましたが、時々音声は切れてしまう。ふと気が付くと寝ていたかな・・・。

翌日は生活の分科会に靖さんと出席。モンゴルの障害当事者の方お発言もありましたが、準備が間に合わなかったようで資料がなく、靖さんのトイレ介助が入ったりして、きちんと内容を理解できずじまいで残念。

交流会でお会いした現地の自閉症協会の方は、息子さん16歳ということでしたが、3年間東北大に留学していて、日本語も上手でお話できました。モンゴルの元気な当事者の方と少しでも交流できたのはよかった。



2日目の交流会では現地の日本語学校の生徒さんも各テーブルに入ってくれて、それなりにおしゃべりもできました。馬頭琴の演奏あり歌や踊りありと、靖さん、幸

子さん、未来さんも一緒になって前に出て踊って楽しいときを過ごしました。未来さんは名刺もたくさん配り、バイラルラー(モンゴル語であります)も連発し、すばらしい社交性を発揮していました。

二日目の朝にはホテルから15分ぐらいのスフバートル広場までお散歩。歩道はあるのだけれどバリアだけでした。車優先という感じで、結構車椅子で歩くのは大変でした。それでも



やっぱり歩くと街の雰囲気を感じられます。貴重でした。

最終日は観光。午前中はノミンデパートでお買い物。カードなんて使ったことがないという祝子さんでしたが、使えることが判明するとここぞとばかりに購入されていました。

午後からは大きな大きなチンギスハーン像がある公園へ。なんと私、ここで財布・携帯電話をスラれてしまいました(パスポートは無事でした)。皆さんにご迷惑をおかけしてしまい申し訳ない。そして康宏さんには本当にお世話になりました。ありがとうございます。康宏さんにはそれだけではなく、今回の旅全般でみんながお世話になりました。かえすがえ



巨大チンギスハーン像

すも、感謝感謝です。最後はゲルで羊の肉を食べて帰りました。

そして帰国予定日にも苦難の出来事が。首都圏を直撃した通常と反対コースを進んだ台風のせいで、飛行機がほぼ一日遅れになったのです。

予定では28日、7時45分発。ホテルを5時半に出て空港へ6時ごろに着いてチェックインしようとする「成田 NO」と言われ、遅れることが判明。ボードには、12時半への変更の表示が。しかし時間が迫ってもチェックインにはならず、確認してもらったところ、翌29日の、0時半になるとのこと。この時点ですでに空港滞在6時間。ニュースで流れる映像の当事者になってしまっていました。

本当に夜中の0時半に飛ぶのか心配でしたが、なんとか飛んでくれて29日朝6時半に成田へ到着。夜中に飛んでも機内食は出るんですね。夜中の3時ごろでした。私は、ノーサンキュウでしたが、他の皆さんはしっかり食べていましたね。

結局、成田仙台の飛行機は満席で乗れず、陸路で仙台へ。12時半ごろ戻ってきました。

最初の書いたように楽しいことも、大変だったことも盛りだくさんのモンゴルでしたが、幸子さん、未来さんも楽しんでくれたようだし、靖さん祝子さんも大喜びで、コッペを休みにして行ったかがありました。

最後に、準備で大変だった共同連の事務局の皆さんお疲れさまでした。ありがとうございます。

糸半

尙部央希

きつと仲よくするのは優くなって欲しい
です。これからはずっと「大事」というです。

仲間を信じるこれが気持ちになる

このまま進んで仲間は「コッペ」の
職員人ですよ、しっかりと希望は

一人一人の中にあります。大事になって
気持ちなれるようにコッペの仲間は
糸半あります。